

H26年度 第3回緊急時「情報力」強化検討会議 議 事 録

平成27年3月26日(木) 15:00
県庁北棟5階B会議室

役 割	内 容
司 会 山本GM	<p>皆さまお揃いですので、ただいまから第3回緊急時「情報力」強化検討会議を開催いたします。</p> <p>配付資料の確認をお願いします。</p> <ul style="list-style-type: none">・次第・「緊急時情報案内人」育成講座について・「緊急時情報」育成講座(各会場)アンケート集計 <p>不足等、ございませんでしょうか。</p> <p>それでは次第に従い進めてまいります。</p> <p>検討会議の議長は要綱に基づき委員長が務めることとなっています。 香取委員長、議事進行をよろしくお願いします。</p>
議長	<p>それでは、議事に入ります。 本日は「緊急時情報案内人」育成講座についてです。</p> <p>今さら皆さんに御説明するまでもないのですが、必要な情報を適切に入手できない方を手助けするため、「緊急時情報案内人」を育成し、認定することで、周囲の人々や地域で支えるネットワークづくりに繋げていこうという取組です。12月に青森市でシンポジウムを、1月には県内3地区で育成講座を開催しました。皆様には、パネルディスカッションのパネリストや、講師を務めていただき、ありがとうございました。</p> <p>引き続き27年度も、育成講座を県内6地区で開催することとしておりますので、今回の実施内容を振り返り、27年度に、より効果的な形で実施できるよう、御意見をいただきたいと思っております。</p> <p>まず今年度実施した育成講座の概要を資料にまとめておりますので、事務局から説明してください。</p>
事務局	(資料により説明)
議長	<p>ただいま事務局から説明がありましたが、委員の皆様には、実際に講師を務めていただきましたので、会場で感じたことや、こうした方がよいと思われることがあるのではないのでしょうか。</p> <p>お一人ずつ御意見をお願いします。</p>
竹内委員	<p>講座の中で、実際にスマホを操作して、災害版伝言ダイヤルを試聴してみたのが有効だったと思います。操作が不得手な方が多いので、そのあたりに重点を置けばもっとよかったかなと思います。</p>
中島委員	<p>まず、12月に開催したシンポジウムでは、思った以上に多くの方々が興味を持って聴いてくださっていたのが印象的でした。集中して聴いているのが伝わってきて、本当に意識の高い人たちが多いのだなと実感しました。話を聴いた意識の高い方たちが、それを活</p>

かして、活動していく道筋のようなものがあつたらいいな、とも思いました。

育成講座では、地元の八戸市で講師としてお話させていただきました。地元なので知っている方も参加していて、感想を伺ったのですが、アンケートにもあつたとおり、(講座の内容について)既に知っている人もいたし、知らない方も多かったです。ですから、参加者のレベルに応じた内容でできればいいのかな、とも思いますが、でもまだまだ知らない方も多いので、これまで知らなかった人に内容を知ってもらえたのはとても良かったと思います。そして実際の操作を試して、地域に持ち帰って他の人に伝える、ということがとても役に立つので、次回はその操作を、一つか二つ増やせればよいのではと思います。

阿部委員

むつ市の会場には聴覚に障害のある方もおられました。当課の事業で「視覚・聴覚に障害のある方に iPad を教えることができる人財育成」を実施してるので、その関係もあり参加して下さったかと思います。他の事業との連携も含めて、本当に身近にいる情報が不足している方へ、アプローチができたのかなと思います。

どうしても、参加者のスキルに差があるので、「よかった」とか「物足りなかった」とか様々なアンケート結果が出てくるのは仕方がないのですが、これまでインターネットに接していなかった方への動機付けとしては成功した部分もあると思います。携帯やスマホを持っていても普段あまり使わないという人にとっては、使ってみようかなというきっかけになったと思います。

あとは、レベル別に開催するとか、開催日を夜や、休日にするなど工夫することで、参加者を増やすことができるのではないかと思います。

「緊急時情報案内人」は、個人の方を認定して、その案内人の方が周りに伝えるという考え方がベースになっていますが、今後は参加者同士の交流があってもいいのではと思います。集合研修プラスアルファの仕組みがあつて、住民同士が協力して情報を取るとか、情報を教え合うことができればよいのではないかと思います。

議長

将来的には、今回認定された方々がサポーターとなつて、この取組を応援したり広めてくれるようになれば嬉しいですね。

阿部委員

もう一つ、情報案内人を今後広く知ってもらうためには、ブランド化というか、ステッカーなど認定マークのようなものがあればいいのではと思います。また本当に人数を増やすためには、例えば、カリキュラムをインターネット上で受講できるような仕組みがあればよいのではないかと思います。

議長

コミュニティのような、実際に顔を合わせる機会と、両方大事かもしれませんね。

大浦委員

今回の育成講座は、参加者のスキルがどの位なのか、わからない中で、ぶっつけ本番だったと思います。アンケート結果を見ると、やはり多少のバラツキがあつたようです。実際に操作をしてみる、というのは、参加者にとって感覚が残るので、増やしてもよいと思います。

また、県に期待する取組として、ICT利活用講習会など、今回の事業とは若干異なるものもあるかもしれませんが、要望としては多いのだなと感じました。

先ほど阿部委員からも話がありましたが、この育成講座の後に続いていく仕組みを作っていかなければ、形骸化してしまう恐れもあるのではないかと感じます。

工藤委員

参加者募集の際のポスター等に、具体的な講座内容を記載しておいた方が、スマホの操作ができる人が集まるなど、絞り込みができるのではないかと感じました。講座の一回の人数としては、あまり多くなると大変なので、今回くらいの人数で、回数を多くできればよいのではないかと感じます。スキルごとに分けて実施するのが効果的ではないかと思っています。

八戸市では自主防災組織の関係者が多かつたので、そういった意識の高い方に受講していただくためにも、やはりある程度回数を多くしたほうが良いと思います。

議長

ありがとうございました。ほかに何か付け加えることなどありませんか。

- 阿部委員　　今回、アップルウェーブのラジオ放送を聴いて参加したという方がいました。例えば、これまでに実施した講座を撮影した動画や写真など、参加しようとする人が、どんな内容なのか見られる環境があればよいのでは。また、A-Stream等、県の広報で情報発信している媒体があるので、活用してもよいのではないのでしょうか。あるいは、今後、百人目、千人目の認定者には知事から認定証を交付しますとか、先ほど話したブランド化に繋がる仕掛けがあってもよいのでは。
- 事務局　　今回の周知方法についてなのですが、県広報媒体として、A-Streamやテレビ、ラジオ、新聞等がありますが、いずれも枠が限られていますので、応募はしたものの、利用することができませんでした。それで、今回の開催地がいずれもコミュニティFMがある地域でしたので、お願いしてラジオで放送していただいたり、メール等で周知していただきました。
- 事務局　　防災意識をお持ちの方に参加してほしいということで、各開催市から自主防災組織の情報をお聞きし、個別に通知を出しました。自主防災組織は、町内会長が代表者となっている場合がほとんどで、高齢者で、機器の操作についてはあまり経験のない方が多かったようです。自主防災組織の役割の中で、副会長、広報担当等があると思いますので、そういった方に参加していただければ、もう少し実効性が上がるのではないかと感じました。
- 大浦委員　　参加者の中でスマートフォンを持っている人の割合が少なかったですね。持っているのがスマホか否かで、実際に試す場面で操作が違ってくることがあるので、そこで線引きをしてもよいのではないかと思います。
- 中島委員　　募集を受け付けした時点で、機器を持っているかいないかチェックをしていたのですか。
- 事務局　　携帯・スマホをお持ちの方は持参してくださいという案内をしました。
- 大浦委員　　スマホかガラケーかで、できることが違う場合がありますよね。災害版伝言ダイヤルはどちらでもできますが、例えばS k y p eは、スマホでなければできません。災害時、一般通話ができなくてもS k y p eが繋がるという場合もあると思いますし。また色々な接続方法を試してみる、といったこともできると思います。
- 阿部委員　　大学生や高校生などの若い人たちの参加があればよいと思います。日中何か起きた時に、高齢者を支援できるのはビジネスマンではなく、若い人だと思いますので、大学生のサークル活動やボランティアの団体をうまく活用することができないのでしょうか。若い人をターゲットにできればよいのではないかと思います。
- 議長　　青森市内の大学生でも、やる気のある若い人はたくさんいると思いますよ。中心市街地活性化に取り組んでいる学生も、サークル活動の延長で活動しています。そういう学生に声をかけて協力してもらうのはお互いのためになると思います。特に予算がかかるわけでもないですからね。
- 事務局　　27年度の開催予定6回というのは、会場費等経費がかかるものとして6回分確保されているということです。ですから、例えば県庁の会議室でやるとか我々スタッフが出かけて行ってやるとか、経費がかからない方法によって、おそらく回数を増やすことができると思います。
- 議長　　アウガ6階に公立大の無料のスペースがありますので、10人位までであれば使うことができると思います。始めに学生ボランティアに教えた上で、学生を活用することもできるでしょう。
- 大浦委員　　以前うちのNPOで、ヒロロにIT相談コーナーを3か月間ほど設置していました。周知のかがあって、徐々に相談者が集まってくるようになりました。相談の内容も範囲が

広がっていきまして、それでわかったのですが、相談したいと思っている人たちが、相談できる場所がないということです。ですから、定期的に講座が開催されるというのでもいいのですが、何かわからないことがあった時に聞ける場所がある、というのが良いのではないのでしょうか。ただ、コストもかかることですし、それだけを単体でやるのは難しいでしょうけれど。ただ、困っている人がどこに相談したらよいのか分からない、というのが実態ではないかと思います。

議長 相談範囲が広がって、よろず相談所となりかねないですが、範囲をICTに限ることができれば有効かもしれませんね。

ほかに何かございませんか。よろしいですか。

様々なご意見をいただきありがとうございました。

本日検討していただいたご意見を勘案しながら、事務局で27年度の実施計画を作成してください。

委員の皆様には、育成講座での講師を担っていただくこととなりますので、引き続きよろしく願いいたします。

司会 それでは、これで議事を終了しますので、進行を司会にお返しします。

ありがとうございました。

本日色々御意見をいただきまして、いくつか課題が見えてきましたので、十分に検討の上、来年度反映させて参りたいと思います。委員の皆様には、講師をお願いすることになりますので、日程調整をさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

情報システム課長 最後に、情報システム課長から挨拶があります。

昨年7月の第1回検討会議から今回まで、大変貴重な御意見をいただきましてありがとうございました。また、シンポジウムや講習会へ、パネリストまた講師としてお忙しい中御参加いただき、大変ありがとうございます。

私の経験を申し上げますと、昭和43年に十勝沖地震が起き、本県で46名の方がなくなりました。その後、昭和58年の日本海中部地震では17名が、平成6年の三陸はるか沖地震では3名の方が犠牲になりました。そして先般の東日本大震災と、非常に大雑把な言い方をしますと、十数年に一度は大きな地震が起きています。これからも必ずや大災害が起きると考えられます。そこで役に立つのが情報の入手です。委員の皆さま方には引き続き、色々な御意見をいただきまして、ICTの活用や情報力の強化につなげていただきたいと思いますので、引き続きどうぞよろしく願いいたします。

司会 以上をもちまして、第3回緊急時「情報力」強化検討会議を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。